
『国立歴史民俗博物館研究報告』(第61集～第80集) 総目次

第61集 (1995年1月発行)

共同研究「生命観——とくにヒトと動物との区別認識についての研究——」

基層文化への関心とこの共同研究——文字史料をあつかう者の立場から——……………塚本 学

I 研究論文

- 江戸時代における動物の生命と人命……………塚本 学
中世における殺生観の展開……………原田 信男
古代・中世の村落における動物祭祀……………松井 章
縄文人と弥生人の動物観……………西本 豊弘
河童伝承における人的要素……………中村 禎里
日本人の家畜飼養と野生動物とのかかわり……………市川 健夫
日本人の考えた動物霊……………千葉 徳爾
分泌=排泄物(エクスクレマン)の文化地理学——オードリクール再検——……………松井 健
ヒツジの名称体系——イラク共和国ハムリン盆地の定住農牧民の場合——……………篠原 徹
「水辺」の技術誌……………菅 豊
——水鳥獲得をめぐるマイナー・サブシステムの民俗知識と社会統合に関する一試論——
八重山地方における人とカタツムリ (*Fruticicola sieboldiana*) とのかかわり……………野中 健一
発表記録 方言を通して見る精霊としての虫……………斎藤慎一郎

II 附篇

研究発表・討論要約

総合討論——共同研究「生命観」について——

共同研究「日本における基層信仰の研究：生命観——とくにヒトと動物との区別認識についての研究——」研究会の記録

第62集 (1995年1月発行)

共同研究「日本人の色彩感覚に関する史的 research」

共同研究の経緯と成果の概要……………小林 忠雄

I 素材論的アプローチ

- 古代金工における色彩——古代の色は復元可能か——……………村上 隆
二十世紀の新しい色——合成有機顔料——……………園田 直子
発表記録・吉野ヶ里の貝紫と茜……………前田 雨城

II 認知論的アプローチ

- 色彩語彙分析のあり方……………長野 泰彦
上代裂に見られる色彩の系統色名——国立歴史民俗博物館収蔵資料上代裂帳について——……………神庭 信幸
色彩の象徴性・再考——ターナーの色彩論をふりかえって——……………吉田 憲司

III 文化論的アプローチ

- 赤と青——「もどき」をともなう王の舞——……………橋本 裕之
日本建築における色彩……………濱島 正士
江戸中期における能装束の色彩……………山口 憲
加賀紋の系譜……………花岡 慎一
江戸時代五十嵐様式の蒔絵——秋草文様を追って——……………本谷 文雄
1930年前後の都市における色彩環境——色彩感覚の近代化——……………小林 忠雄

第63集 (1995年11月発行)

共同研究「都市空間の形成過程についての研究」

都市空間の形成過程の解明にむけて	虎尾 俊哉
共同研究の実施概要	平川 南
国府市・国府交易圏に関する再論	栄原永遠男
古代における津の都市的様相	鬼頭 清明
平泉柳之御所跡研究の現在	入間田宣夫
国府の形態と構造について	金田 章裕
国庁周辺に広がる集落遺構の性格について——武蔵国庁周辺の状況をもって——	荒井 健治
周防国府の建物群とその景観	大林 達夫
古代国府関係史料集(その3)——国府跡および国府推定地出土墨書・刻書土器集成(稿)——	平川 南

第64集 (1995年11月発行)

特定研究「列島内諸文化の相互交流——北部日本における文化交流——」成果報告-1

青森県十三湊遺跡・福島城跡の研究

刊行にあたって	石井 進
第1章 調査の目的と経過	千田 嘉博
1 特定研究「北部日本における文化交流」のねらい	
2 十三湊遺跡・福島城跡調査の目的と課題	
3 調査経過	
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	小島 道裕・榊原 滋高
第3章 文献および絵図・地図資料による検討	小島 道裕
1 文献資料による検討	
2 絵図・地図資料による検討	
第4章 考古学的調査による成果	
1 調査の方法	千田 嘉博
2 詳細分布調査	宇野 隆夫・前川 要・高橋 照彦・榊原 滋高
3 福島城跡の発掘調査	千田 嘉博・榊原 滋高
4 十三湊遺跡土塁・堀の発掘調査	千田 嘉博・榊原 滋高
5 十三湊遺跡北部地区の発掘調査	千田 嘉博・高橋 照彦・榊原 滋高
A 92年度第1地区	
B 93年度第1地区	
6 十三湊遺跡南部地区の発掘調査	前川 要・高橋 照彦・榊原 滋高
A 92年度第3地区	
B 93年度第2地区	
〈付〉十三湊中軸街路と町屋	
第5章 自然科学的調査	
1 福島城跡および十三湊遺跡における電気探査	酒井 英男・宇野 隆夫・前川 要・田中 保士・張 忠良
2 十三湊遺跡発掘に伴う試料の花粉・寄生虫卵分析ならびに種実・樹種同定	金原 正明・金原 正子・中村 亮仁・金原 明
3 十三湊製鉄遺物の分析科学的調査	田口 勇・齊藤 努
第6章 総括と展望	
1 福島城跡	千田 嘉博
2 中世十三湊出土の陶磁器	榊原 滋高
3 中世十三湊の構造	小島 道裕

4	十三湊の変遷	千田 嘉博
5	今後に向けて	千田 嘉博
第7章 十三湊遺跡・福島城跡をめぐる論考		
1	北奥・北海道地域における古代防御性集落の発生と展開	三浦 圭介
2	北の山城	千田 嘉博
3	近世十三湊に関する基礎的考察	長谷川成一
4	十三湊遺跡隠居地点（いわゆる伝檀林寺跡）の調査	
A	日本海交易と十三——十三湊遺跡隠居地点発掘調査の報告を兼ねて——	櫻井 清彦
B	十三湊遺跡隠居地点及び周辺の地形と表層地質	海津 正倫
C	十三湊遺跡隠居地点出土の遺物	榎原 滋高
研究会の記録		

第65集（1996年2月発行）

特定研究「日本歴史における地域性」成果報告—5 千葉県成東町駄ノ塚古墳発掘調査報告
東国における古墳の終末〈附編〉

第66集（1996年2月発行）

日本の農耕文化の諸問題——農耕文化研究会研究成果報告 1——

里刀自小論——いわき市荒田目条里遺跡第二号木簡から——	平川 南
贈答・饗宴の品々、そして年中行事——「天文日記」から、「大坂寺内町の日々」（二）——	水藤 真
近世初頭における石火矢の出現と普及	宇田川武久
徳川将軍家に縁故ある神社をめぐる寺社奉行と神主	湯浅 隆
——岡崎にある伊賀八幡宮の社殿維持をめぐる——	
江戸時代の村の武力について	塚本 学
錯圃制耕地の形成と近世村落	福田アジオ
農耕儀礼と郷村	岩井 宏實
波照間島の祖先祭祀と農耕儀礼——ムシャーマ行事を中心とする盆行事の考察——	上野 和男
性象徴の考古学	春成 秀爾
[資料紹介]	
高松宮家本「職人歌合絵巻」	神庭 信幸・小島 道裕
日本・韓国の鉄生産技術〈調査編〉補遺	藤尾慎一郎・齊藤 努

第67集（1996年3月発行）

共同研究「都市における交流空間の史的研究—広場・道と川—」

共同研究「都市における交流空間の史的研究—広場—」

研究会の記録	福田アジオ
日本の村落空間と広場	福田アジオ
村落の広場・都市の広場——和泉地方の事例を中心として——	市川 秀之
都市の形成と広場の発生	中岡 義介
——ラテンアメリカにおけるスペイン植民都市とブラジル移民都市を中心に——	
都市空間の原初形態——山岳寺院の構造と広場性——	小林 忠雄
古代の衢（ちまた）をめぐる	白石 太郎
日本中世における市庭と広場	藤田 裕嗣
広場と制札——現存の中世制札から——	小島 道裕
江戸の開帳札	湯浅 隆
広場と芸能——その時空——	小笠原 恭子

共同研究「都市における交流空間の史的研究—道と川—」

研究会の記録	山本 光正
東北の河原町の特徴	森栗 茂一
近世中村城の造営と城下町中村の形成——奥州浜街道と宇多川の経路の推移——	岩本 由輝
中川番所の通関制度	加藤 貴
大和川をめぐる地域文化	岩井 宏實
沖縄諸島における「町」の形成	朝岡 康二
道で結ぶ祝祭——チェコ・モラヴィアの生活文化形成——	松平 誠

第68集 (1996年3月発行)

共同研究「死者儀礼と死の観念」

共同研究の経過と概要

日本の死者儀礼と死の観念 (1)

副葬される土偶	設楽 博己
東国の人物埴輪群像と死者儀礼	杉山 晋作
古代・中世の京都の墓	五十川伸矢
山中他界観念と虚空蔵信仰——日本的葬送・他界観念の成立と民俗——	佐野 賢治
死をめぐる想像力——物部村の葬送儀礼を手がかりに——	小松 和彦

近隣諸国の死者儀礼と死の観念

魚と再生——中国先史時代の葬送観念——	甲元 真之
台湾北部客家村の死者儀礼	植松 明石
比較の視点としての「風水」——東アジアにおける死者の埋葬をめぐる——	川森 博司
タイ仏教徒の他界観念に関する一考察——上座部仏教と伝統的精霊観念の接合——	小野澤正喜
ブリテン新石器時代における死の考古学	藤尾慎一郎

日本の死者儀礼と死の観念 (2)

祖先崇拜	田中 久夫
古代人の死、と墨書土器	平川 南
『兼頭卿記』に見える先祖の供養	水藤 真
中近世和泉国の三昧聖と寺院——長滝墓地を中心に——	細川 涼一
三昧聖と墓制の変遷	吉井 敏幸

第69集 (1996年3月発行)

特定研究「近畿地方村落の史的的研究」成果報告

近畿地方村落の史的的研究

研究の総括

紀伊国隅田荘研究の課題	石井 進
研究の経過と成果	福田アジオ

I 荘

隅田荘関係文書の再検討——隅田葛原氏を中心に——	久留島典子
隅田荘中世地名考	勝田 至
兵農分離政策と郷土制度——和歌山藩隅田組を素材として——	藤田 達生
神社と近世地域社会	岩城 卓二

II 村

近世の村と寺——紀伊国伊都郡境原村を事例として——	渡辺 尚志
明治期における村落景観の変容——紀伊国伊都郡境原村——	出田 和久
紀ノ川左岸における水利と村落	福田アジオ

境界集落の渡世——隅田荘真土村——	森栗 茂一
森神信仰としての里神	福原 敏男
Ⅲ 家	
由緒地域の村役人家	深谷 克己
家の歴史と民俗——上田三家の世代継承と先祖認識——	新谷 尚紀

第70集 (1997年1月発行)

中国東南沿岸部の新石器時代	西谷 大
考古学と記紀の相克——小林行雄の伝世鏡論——	春成 秀爾
擦文文化の回転式鋸頭	前田 潮
中国西南部における父子連名制と家族組織——貴州省苗族の二村落の事例を中心として——	上野 和男
セマウル運動と農村新興運動	崔 吉城
[調査研究活動報告]	
語り手から見た昔話——岩手県遠野の観光の現場から——	川森 博司
トカラ列島宝島大池遺跡	宝島大池遺跡発掘調査班
特定研究「列島内諸文化の相互交流の研究」1994年度第2次発掘調査概報	
[資料紹介]	
信長侵攻期近江南郡の村と「元亀の起請文」	藤田 恒春
広橋家旧蔵「兼仲卿曆紀 文永十一年」について	高橋 秀樹
[日本の農耕文化の諸問題Ⅱ]	
弥生時代の動物質食料	西本 豊弘
藤ノ木古墳出土農工具の提起する問題	白石 太郎
北部日本における古代文化と農耕	阿部 義平
上総国望陀郡大谷村における加持・祈禱——雨乞・虫加持・疱瘡加持を中心に——	山本 光正

第71集 (1997年3月発行)

共同研究「中世食文化の基礎的研究」

研究活動の記録と課題	吉岡 康暢
[第1部] 中世食器の地域性	越田賢一郎・飯村 均・服部 敬史・尾野 善裕・田嶋 明人・ 鋤柄 俊夫・山本 信夫・山村 信榮・馬淵 和雄・鈴木 康之・吉岡 康暢
[第2部] 中世食文化の諸相	
中世食器様式の意味するもの——計量分析による使用法の復元——	宇野 隆夫
食器からみた中世鎌倉の都市空間	馬淵 和雄
文献からみた中世の土器と食事	脇田 晴子
古代・中世における共食と身分	原田 信男
大饗の食器	野場 喜子
「瓷器」「茶椀」「葉椀」「椀器」考——文献にみえる平安時代の食器名を巡って——	高橋 照彦
中世の鍋釜——鑄鉄製煮炊用具の名称——	五十川 伸矢
土製煮炊具にみる中世食文化の特質	鋤柄 俊夫
煮炊器具と火の管理技術——炉の形式と鍋釜を中心に——	朝岡 康二
木地屋研究——木地椀の製作工程を中心にして——	須藤 護
食風俗描写史・試論——絵巻物に見る食風俗——	並木 誠士
稲の掛干しの起源についての基礎的考察	河野 通明

第72集 (1997年3月発行)

鉄の生産と流通からみた北方世界——鉄関連遺構の性格の再検討を通じて——	赤沼 英男・福田 豊彦
-------------------------------------	-------------

松尾大社における市杵嶋姫命の鎮座について……………	北條 勝貴
——主に秦氏の渡来と葛野坐月読神社・木嶋坐天照御魂神社の創祀に関連して——	
グロー放電質量分析法などを用いた犬釘資料の自然科学的研究……………	大橋 一隆・齋藤 努 岩崎 廉・高塚 秀治
関東平野における弥生時代以降の植生史と人間活動……………	辻 誠一郎
明治国家形成期における「官民調和」論と対中国・朝鮮論……………	小関 素明
鎌倉期における經典印刷と流布——春日版大般若経を中心に——……………	稲城 信子
[史料紹介]	
「田中穰氏旧蔵典籍古文書」所収の記録類について……………	高橋 秀樹
「田中穰氏旧蔵典籍古文書」所収記録類目録……………	田中本調査団

第73集 (1997年3月発行)

近世窯業遺跡データ集成

近世窯業遺跡地名表
近世窯業関連主要文献目録
近世窯業遺跡分布図

第74集 (1997年3月発行)

共同研究「都市における交流空間の史的研究——権力表象の場と儀礼——」

共同研究の経緯と概要……………	古瀬奈津子
[シンポジウム報告]	
[1] 都城の成立と儀礼	
権力表象の場としての古代宮都……………	今泉 隆雄
倭京の都市指標——日本列島における都城形成(三)——……………	阿部 義平
都城の成立と行幸——「動く王」と「動かない王」——……………	仁藤 敦史
国司をめぐる儀礼と場……………	佐藤 信
[2] 平安京——古代から中世へ——	
律令国家権力の変質と儀式……………	古瀬奈津子
出土文物からみた平安時代の儀礼の場とその変化……………	高橋 照彦
古代末期都城における供膳形態の一様相……………	堀内 明博
——土器組成からみた各宮域の空間利用の特質——	
鎌倉の都市形成と陰陽道……………	河野真知郎
カワラケ、小考……………	吉岡 康暢
都城の変容——平安京の構成原理——……………	北村 優季
都城の象徴性と王権の祭祀——朝鮮の事例を中心に——……………	岩本 通弥
[3] 中世都市と儀礼	
室町幕府の京都支配と祇園会御成……………	二木 謙一
室町幕府と祇園祭……………	山路 興造
城下町、館・屋敷の空間と権力表現……………	小野 正敏
会所の美術——室町時代の唐物と「美術」システム——……………	鳥尾 新
討論	
飛鳥寺西辺の儀礼空間……………	木下 正史
平安前期の相撲節……………	吉田 早苗

第75集 (1997年3月発行)

南蛮美術総目録 [洋風画篇]

総論：南蛮美術と洋風画

目録・図版

洋風画一覧

- 1 世界図・都市図
- 2 王侯騎馬図
- 3 王侯武将図
- 4 田園遊楽図
- 5 人物図
- 6 達磨図
- 7 キリスト教関連絵画

主要展覧会一覧

南蛮文化主要文献目録

第76集 (1998年3月発行)

須恵器の焼結と海成粘土	清水 芳裕
従業員の就労条件改善策を支える使用者側の事業確保と生活保障	蓬田 伸光
——青森県V町の林業事業体の事例から——	
博物館における相対湿度環境に関する研究動向(1)——小空間の特性——	神庭 信幸
アーネスト・サトウ著「上野地方の古墳群」の学史的位罫——英国外交官の考古学探究——	加部 二生
[研究ノート]	
霞ヶ浦のワカサギ漁獲量の統計資料を読み解く	水口 憲哉・工藤 貴史
[調査研究活動報告]	
企画展示『倭国乱る——卑弥呼の登場まで——』	藤尾慎一郎
京都大学所蔵「マリア十五玄義図」の調査	神庭 信幸・小島 道裕・横島 文夫・坂本 満
観光の場で語られた昔話	川森 博司
——「遠野の語りべたち」(民俗研究映像『遠野民俗誌94/95』資料編)文字テキスト版——	
[資料紹介]	
春日若宮おん祭の近世田楽頭役記録	福原 敏男
——『観音院頭屋棟梁日記』及び『庁中漫録』田楽頭役記事の紹介——	
「康正三年記」	古川 元也

第77集 (1999年3月発行)

下顎骨製搔器——獣皮の加工具について——	春成 秀爾
ベリリウム・鉛同位体による南西諸島出土縄文前期土器の産地と流通の研究	今村 峯雄・坂本 稔
	齋藤 努・西谷 大
福岡平野における弥生文化の成立過程——狩猟採集民と農耕民の集団関係——	藤尾慎一郎
中世城郭都市の形成——日欧インカステラメントの比較考古学——	千田 嘉博
古代における建築工事の工程と儀式	濱島 正士
中世村落における惣判・惣印について	菌部 寿樹
越前における法華信仰の展開——敦賀鋳物師地区の小型石造物考——	古川 元也
十二支の「七ツ目」に関する俗信	腮尾 尚子
祭礼の練物——岡山東照宮祭礼——	福原 敏男
[研究ノート]	
土偶形容器と黥面付土器の製作技術に関する覚書——複製品の製作を通じて——	設楽 博己
[調査研究活動報告]	
国立歴史民俗博物館の保存環境に関する調査研究の活動報告(平成9年度まで)	神庭 信幸

——温湿度，汚染物質，生物——

[資料紹介]

大阪府・枚方市尊延寺所蔵文永十年摺写の大般若経について……………	稲城 信子
山科家年貢散用帳二点について……………	宇佐見隆之
石井進さんを送る——三学協業を実践する人——……………	佐原 真
石井進年譜・著作目録	
益田宗先生を送る……………	高橋 敏
益田宗年譜・著作目録	

第78集 (1999年3月発行)

共同研究「都市における生活空間の史的研究」

共同研究の経過と概要……………	平川 南
共同研究の研究総括と都市研究の展望についての報告	
日本古代における都市形成と国家……………	浅野 充
古代地方都市論——多賀城とその周辺——……………	平川 南
土器の流通・消費からみた平安京とその周辺……………	高橋 照彦
「宿館」「宿所」と「本宅」——成立期中世政治都市についての覚書——……………	斉藤 利男
日本中世集落における短冊形地割の考古学的研究……………	前川 要
中世末から近世初頭の善光寺門前町……………	笹本 正治
近世中村城および城下町中村とその周辺における寺社配置……………	岩本 由輝
なぜ都市を問題にするのか——都市民俗学のフィールドワークのころざしに関連して——……………	森栗 茂一
石割平造著「支那城郭ノ概要」——旧陸軍軍人の目を通して見た中国の城郭都市——……………	愛宕 元

第79集 (1999年3月発行)

日本古代印の基礎的研究

I 古印調査の経緯と概要……………	平川 南
II 古印の実物写真	
III 日本古代出土印，伝世印集成一覧・図面	
日本古代出土・伝世印集成一覧	
日本古代出土・伝世印集成図面	
IV 論考	
1. 事例報告——出土・伝世印	
群馬県境町「保泉・丸山西遺跡」出土の銅印……………	坂爪 久純
平塚市構之内遺跡出土の銅印とその出土状況……………	上原 正人・田中 曉徳
権現坂遺跡出土の刻印須恵器から……………	清水 正明
大宰府史跡出土の木製印章……………	狭川 真一
筑前にゆかりある印章の伝来経緯について……………	狭川 真一
2. 古代印論——出土・伝世印と印影	
「東大寺印」と「造東寺印」——正倉院文書の分析から——……………	田中 史生
「相摸国天平七年封戸租交易帳」の復原と二三の考察……………	荒井 秀規
延暦十五年「越前国坂井郡符」にみえる「坂井郡印」について……………	三上 喜孝
円形印の押された資料——正倉院文書と製塩土器——……………	北條 朝彦
調庸布純墨書銘と徴税機能——国印の押印箇所を手がかりに——……………	亀谷 弘明
漆紙文書における印影検出の可能性……………	古尾谷知浩
古印を捺した土器——土器に印を捺すということ——……………	榎村 寛之
鹿島郡の古印……………	瓦吹 堅

古代の私印について……………	高島 英之
私印論……………	土橋 誠
考古資料としての古代銅印について……………	田路 正幸
古代郡印論……………	平川 南
日本古代印研究——その歴史的・時系列的展開と律令国家の本質——……………	久米 雅雄
3. 古代印関連論——制度・印譜・復原・科学的調査	
公的鑄造官司の変遷について——鍛冶司・典鑄司・内匠寮——……………	仁藤 敦史
『集古十種』印章類の資料的性格について……………	佐藤 洋一
日本古印譜の研究（序説）——藤貞幹以前について——……………	小倉 慈司
古代国印の復原と課題——信濃国印の復原制作を通して——……………	福島 正樹
非破壊手法による銅印の科学的研究……………	永嶋 正春
付 日本古代印関係文献史料抄……………	小川泰子編

第80集（1999年3月発行）

展示プロジェクト研究「装飾古墳の諸問題」

古墳時代の絵の文法……………	佐原 真
装飾古墳にみる他界観……………	白石太一郎
肥後における装飾古墳の展開……………	高木 正文
福島県の装飾横穴……………	福島 雅儀
黥面土偶から黥面絵画へ……………	設楽 博己
埴輪の絵……………	春成 秀爾
四神図の系譜……………	和田 萃
古墳上の継承儀礼説について——祭祀研究の立場から——……………	岡田 精司
北朝・隋唐と高句麗壁画——四神四像と畏獣図像を中心として——……………	東 潮
中国の古墓壁画と日本の装飾古墳……………	西嶋 定生
装飾古墳の色彩と素材……………	永嶋 正春
装飾古墳の民俗学……………	橋本 裕之
装飾古墳主要文献目録……………	玉利 敷・設楽 博己